

職業探検へ少年団

勤労観育成目指す

ＩＴ、福祉など体験学習

日立市が組織化

子どもたちの勤労観や職業観の育成を目指し、日立市は小中学生が工業や農林水産業、ＩＴ、福祉などを体験学習する「職業探検少年団」を組織する。各分野の技能者や技術者が団長となり、団員は七月から来年三月まで毎月、「見聞「体験」といった職業探検をする。地域や産業界の力を生かし、継続的な職業体験を組織化する試みは、全国でも珍しい。

同少年団は、①農業②栽培漁業を学び、海洋高校見学や同高の実習船に乗り③あきんど④ＩＴの福祉の七部門で結成する。各少年団はおおむね、小学五年から中学三年で構成。六月から募集を始め、各少年団の定員は十五～二十人。

林業少年団は林木育種センターや製材所などを見学、登山を通して森林観察、枝打ちや間伐作業を行う。水産少年団は

栽培漁業を学び、海洋高校見学や同高の実習船に乗り、漁港での観望、漁網の修理、魚の選別作業を体験する。

ものづくり少年団は半導体やモーターの仕組みなどを学習。熟練者の技を見たり、東京ビッグサイトで開かれる国際ロボット展を見学する。ＩＴ少年団はパソコン組み立てやホームページ作成、情報処理活用能力検定三

級にも挑戦する。少年団組織化に向けて十八日、産業界や団体、行政などによる市職業探検少年団本部を日立商工会議所に設置。活動の推進や少年団相互の交流、情報交換を図ることにした。

学校を飛び出し、地域

資源を教材に、さまざまな活動を展開する職業探検少年団。子どもたちにとって、多様な産業を肌で感じる絶好の機会となりそうだ。(蛭田稔)

茨城新聞

2006-5月26日